

NOTE BOOK

日記



一、六

川陽子

種園生

五月

七日

ヨリ

九月

十日

マデ

マデ

マデ

マデ

マデ

マデ

マデ

マデ

マデ

マデ

マデ

マデ

マデ



五月十七日

今日は朝から風がたくさん吹いてゐた。午後の  
発表會があった。私は班長だったので、目を  
を言った。松達は、前からおけいこをしてゐた。  
四秀の雨、特別攻撃隊を歌った。二年生の  
三部四年の歌は、とても面白かった。牛若丸は、  
うまくて可愛かった。

五月十八日

今日から算数の時間に暗算をする事になっ  
た。そして、早速やった。しばらくやろなかつた  
ので、とてもまごついたり、まちがひたりした。  
今度から一生懸命にやろうと思つた。理科  
の時間は、神社の境内で、木、草、池などの  
研究をした。夕方松達はお當番だったので、  
おひつやおけいをきれいに洗った。

五月十九日

今日は國語のしけんが、とつぜんあつた。書けた  
のもあつたが、書けなかつたのもあつたので、今度か  
らよくおけいこをしようと思つた。午後は、  
お風呂へはいつた。とても氣持がよかつた。

五月二十日

今日は日曜運動があるはずだったが、雨が  
降りさうだったし、地面がしめつてゐたので、取止  
めになった。午後は河原へ行つてお洗濯をし  
た。おはななかつたので、石黒さんのお庭にほさし  
ていただいた。

五月二十一日

今日は朝五時に起きて、二三部五六年の方々  
といっしょに、八幡様の境内から河原を通つて、



朝食をいただいた。いそぎ山へ山菜を取りに行つた。桑山神社のだんくは百十九だんあった。のぼるのにとつてもつかれた。おべんたうはおなかのすいてゐたせゐめとてもおいしかった。  
木村さんのお母様が面會に来ていらつしたので、うらやましかった。

五月二十三日  
今日は青少年學徒にたまはりたる勅語の記念日だったので、お裁式をした。第二回の本格的な予防ちゅうしゃをした。あさつきの皮むきをした。夜は寮で、木村さんのお母様といつしよにみえなで、トランプをした。三浦さんが一番まけたので、歌をお歌ひになつた。それからみくごといふあられお豆をいただいた。

五月二十四日  
今日は、お天氣がよかつたので、急に、立ヶ原へ山菜を取りに行つた。ふくろにいっぱい取つた。先生が、みなよく取つた。えらいと何どもおっしゃつた。おべんたうは持つて行かなくなつたので、一時ごろ歸つてからいただいた。午後、小矢部川へ行つてお洗濯に行つた。

五月二十三日  
今日は、一二三部五六年といつしよに、日本海海戦の歌を歌つた。それから、あせま、いぢぢぢの太いのと細いのをよつて、たばねた。

五月二十五日  
今日は午前二時ごろ空襲があつたので、皆起きた。よい月夜だったので心配した。朝は少しおそく起きた。東京へ二百五十機來たさうなので、お母様はお母様は大丈夫かと思つた。

五月二十六日  
今日は、福光町の國民學校の方々が發表會をして見せて下さつた。とてもうまかつた。このお土産がお見せするのださうだ。三時ごろから石黒さんで映畫を見せいただいた。

五月二十七日  
今日は、二十七日なので、海軍記念日だ。女學校の校庭でとうきゅう大會をした。二部三部の六年生に負けてしまったので、今度の時にはきつと勝たうと思つた。

五月二十八日  
今日は、ほめの組は立ヶ原へ山菜を取りに行つた。が、一部六年はみ洗ひ、お風呂へはいるなどする事があるの、行かなくなつた。

五月二十九日  
今日は、かべを見ると明日夜間訓練と書いてあつたので、おむてなうないかしら、どんな事をするのかしらと思つた。そして喜んだ。

五月三十日  
今日は、午後二時半に出發した。着くとすく、におみそ汁を作つた。御飯をいただいた。



から軍歌のかけいこをしたりたかろさかしを  
したりした。とてもおそくみこたので、おた時は  
うれしかった。

五月三十一日

今日は午前中寮で荷物のせいとんをした。  
冬物をしまつて夏物を出した。

午後は河原へ行って、お洗濯をした。

先生が二人そろつたらおりんごをいただき  
なさいとおっしゃったので、林さんと二人で、  
ただいた。あまくてとてもおいしかった。

六月一日

今日は又山へ山菜を取りに行った。自分  
よりも高い山へ草をいみわけてきか  
した。数はとてもすくなかつたが、太いのが、  
あった。歸つてみたら、みたい所を切り取つた。

六月二日

今日は先生が、お家がやけた人々  
をはげまして力をつけてあげ  
るために、おもちつきをします  
とおっしゃったので、うれしかった。

夕飯の時あんころもちに、おき  
とうが、みかしたのが二つ出た。お  
いしかった。



六月三日

今日はお風呂へはいった。とても氣持がよか  
た。いゆんばんが来るまでは、神社の草取  
りをした。とてもおそくなつたので、夕飯は  
少しくれた。

反省

草取りの時、先生がいろいろなかつたので、  
ぐづぐづしてゐた。今度からさうとしよう。

六月四日

今日は午後二時に出発して、立ヶ原へ第  
二回の夜間訓練をしに行った。今度  
五年女子が、すみ事をして、私達は、たき  
木を取りに行った。たき木を取って来て、  
くじばくして、お夕飯になった。おんばり  
もちが、おみそ汁の中に二つは、いつてみて、  
もおいしかった。たかろさがしは、一枚も  
みつからなかつたので、とてもおんばり  
た。戦争は、とても面白かつた。

反省

たき木を取る時、生懸命に取らなかつた。今度  
から、たくさん取ろう。

六月五日

今日は、きのうおそくねたので、少しおそくま  
でねてみた。午前中は夜間訓練の  
感想文を書いた。午後は授業があつ  
たが、自修だった。

反省なし

六月六日

今日は、久しぶりに授業を日中した。  
算数の時に、たま算をして、わりさん、  
けさんをした。

午後は、自修の時間、いきの皮むきを  
した。とてもくさみかつたが、がまんをして、  
たうたうやり終つた。



六月七日

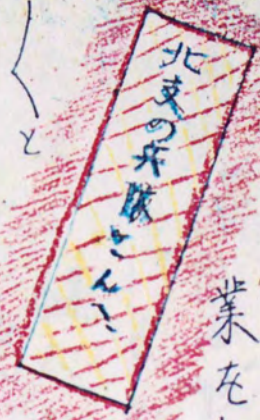
今日は、立ヶ原へ山菜を取りに行くはずだったのが雨天だったのでやめになった。カバニをぬった。夕方東京から郡先生が歸へていらっしやうたので、とめてもうれしかった。

六月八日

お式をした。

業をした。

今日は、八日なので午前中は挨拶午後からは北隊さんへお手紙



支の兵を書いた。降下した。

た。雨が、よば〜と

六月九日

今日は、理科の時間は皆で先生にわからな〜事をお聞きした。

福光町へ来てから、二ヶ月になった。

夕方一部六年の食器を洗う場所がきまった。私達は、今度からすぬ事場所のおさつちをする事になった。

六月十日

今日は、立ヶ原へ山菜を取りに行った。

とてもよいお天気で、暑かった。

一生懸命になって取った。

耳をすますとわろびをおる音が、ぼきぼきと聞こえる。お昼食をいたたいて

みだりすく〜に學校へ歸へた。午後は休養

みだりすく〜に學校へ歸へた。午後は休養

六月十一日

今日は、休養ようだった。

午後から、河原へお洗濯に行った。

風がものすごく降ってゐたので、ほすこどお出来なかつた。お夕飯の時田代さん

バおたん生田だったので、おめでたうと言った。寮へ歸へると石黒さんの照興さん

んがおなくなりになったさうだ。ほんたうにおきのどくな事だと思つて何事も

精静かにした。

六月十二日

今日は、雨が、よば〜と降つてゐた。

一時間目は、國語ではれ間と言ふ所へ移った。

午後夕食まで、日記を書いたりして、

自修をした。長野さんや小林さん

たちは、兵隊さんからおはがきが、来たが私には来なかつたので、つま

らなかつた。

夜は、昭興さんのお顔を見た。まだ、

生きていらつて、今にも動きさうな

氣がした。

脚がつまるやうに思つた。



六月十三日

今日も相變らず、つゆの雨が降つてゐた。時間目は、圖工で、色の見方をおならひした。うかつかりしてゐると志れさうで、よくおぼへようと思つて、頭の中へ入れた。三時間目は、はれ間の繪を書いた。お裁縫は、方形紙を布の上に置いて、へろでしるしをつけたり切つたりした。早く縫ふたくて、たまらなかつた。りっぱに縫ふたい。

六月十四日

今日も雨が降つてゐた。阿久沢先生が、いりやうなかつたので、時間目は算数の三十七頁を自修した。二時は地理で、東インドの島々をした。この次の時へ、大東亞、ニマライ半島と、昭南島のしけんをするとおっしゃったので、早速、おけいこをした。國語は、夜間訓練の綴方をうまい方が、綴よんで下さつた。お習字は、みよし野や、さくらの中の山一つを書いた。反省綴方を、もっと真心をこめて書かう。先生が、一ぱんに、真心がこもつてない。

六月十五日

今日は久しぶりに、お天氣になつた。きのふからのよ定通り、立ヶ原へ山菜狩に行つた。とても暑くて、途中で、上着をぬいでしまつた。たくさん取つてゐる中におべんたうになつたので、お花の咲いてゐる所で、まるくわになつて、おいしくいただく。お花をつみに行かうとするとおねがひりんぼがあつたので、お兄様のお墓まゐりをした時の事を思つて、すこし悲しかつた。發表會のおけいこもした。歸つてからは、森みだつた。夕方寮で、みろだをふいて、着がへをして、よい氣持になつた。

六月十六日

今日は、さうようだった。午前中は、きのふの着がへた物を、河原へ行つてお洗濯した。午後、すぐに、体重をはかつた。二十点五だった。もつとふえて、来々夫夫になつた。久しぶりに、お風呂へはいれ、みみ洗ひも出来、うれしかつた。さっぱりした。



六月十七日

今日は全校運動があった。主に、白兵戦  
競技をした。體當り戦方は石田先生  
に、けん道は八くお先生に、予リやうだ  
んの投げ方は阿久沢先生に、つりさ  
たほし方は喜門先生にならった。  
お晝に大豆のいたたのみ出た。とても  
おいしかった。

六月十八日

今日は桑山へ山菜狩に行った。  
この間下って来た道をどんどんのぼっ  
た。とてもつまれた。  
途中のかけの所で、一生懸命に、おきこ  
を取った。あちろにもこちろにもあつ  
た。とても暑かった。ふいふは取り  
取ってはいた。すずしい木影で、おべ  
んたうをいたただいた。とても、  
おいしかった。たくさん取ったので、すぐ  
に歸へた。休んでみると、みなり  
がごろごろ鳴った。つゆが闇あけて  
行くのだと思ふとうれしかった。

六月十九日

今日は朝會  
の時全校運  
動の時に、敵へ  
ていた。だいた  
つき、體當り  
戦い。つを、や  
った。そこの  
ある聲で、  
「エイ、  
と言った。





六月二十三日

今日は青少年學徒ニ賜ハリタル言勸語の記念日だった。朝食がすんでから八幡様の

の境内でお式をした。

お式が終わるまでからせりのせりをしてしだ。すんで山本寮できかへをしたものを

お洗濯をした。

午後、たいくつだったので、トランプをした

いてゐると中根さんが、

「小川さんお母様よ。」

とおっしゃった。きのうからいらっしゃるか

いらっしゃらないかと待てぬたのだ。

先生によばれてお母様にお会い出

来た時のうれしき。二ヶ月餘り見る

事の出来なかつたお母様寮へ歸へて

いらつたのおにもつを見せたいだけ

た。色々とお話をした。

夜は、いっしょのおふとんにねた。

久しぶりにいっしょにねたので、何だか

とてもうれしい、気がした。明日は波多

さんにおとまりになるのです、もうこれ

が最後だと思ふとつまらなかつた。

六月二十三日

カヤ

今日は朝、起きるとみやかつてありお

母様がやばでねていらつした。

朝けいほうが、發令されたがすぐにかい

いよになった。

午後、お母様が何か言ふ事がある。とお

聞きになったので、お話ししてゐるうちに

悲しくなつて泣いてしまつた。寮へ歸へる

と長野さんのお母様が來ていらつした。

花はなををついていた。だいた

夜お別れした時はとても、悲しくなつ

た。はげまして下さつたお言葉を思ふだ

すと涙がとめどなくなれた。

六月二十四日

今日は朝、もうお母様はおかへりになつたの

みと思ふとみなしかつたので、泣いてみた。

お母様がいらつしたので、とてもうれしくな

つた。少しお話をした。ほんたうに、お別れして

みる、寮校へ行つた。窓の所で見てゐると、

お母様がお通りになつた。みさやうなると

を聲をあげてお別れした。

い、今度はおある出來るかしらと思つと

し、ぜんになみだが、ほほをたはつた。とても

名ごりをしめた。



六月二十五日

今日は福光国民学校赤松国民学校  
の方々に発表會をお見せした。九時半  
ころから會場の支度をいし十時ころは  
じめめだ皆一生懸命におけいこをして  
おいたが、とてもうまう出来た。午後は  
河原へ行ってお洗濯をした。

夜高岡中學校の野阪さんといふ先生  
がいらして落語や歌やこもりの  
吹いたり歌ったりしたのでも  
たのしかった。

六月二十六日

今日は西太美村までおぎ運ぶに行つた。  
行くといふ家のうちから表の方へ出  
た。それがすむと休んで、おぎをまた  
こよこよ山下寮へ行った。さきんといふ  
に持ったとても重かった。途中で手を持  
ちかへ持ちかへてやうやうついた。とても  
かれた。

六月二十七日

今日もおぎを運んだ。  
午前中に一回、午後にも一回運んだ。  
かいたのが、かたがともくたがた。そ  
もこのやうに一生懸命にからだをかた  
べれば、きっと丈夫になるだらう。

六月二十八日

(水曜日)晴

今日は久しぶりに、  
いっ業をした。

だが一時間目の  
国語がすむ

だつたので日記  
と校は自修



かたくさん飛んでみて、とてもきれいだった。  
かろ河原へさん歩に行つた。ほたる  
すぐにみはいた。夕方は七時半ころ  
太陽が、とても強くつてゐたので、  
いただいた。とてもおいしかった。  
くださつた。大きな石の上にこしをかけて  
るめとあんづのたねを  
少ししてから先生がす  
も氣持がよかつた。  
た。川へはいるとして  
う行つてお洗濯し  
た。下着を河原へ持  
した。午後はさきの着がへ  
を書いたり本をよんだり  
だつたので日記  
と校は自修  
国語がすむ  
だが一時間目の  
いっ業をした。  
今日は久しぶりに、

つよくなろうと思つた。

あせをながしてはこんで  
友達、ほんたうにありが  
みなかの子供はつよいカ持ちだとも  
思つた。私達もこの福光町で、カ持  
つよくなろうと思つた。



六月二十九日(曇)金曜日  
今日は又西太美村まで、まき運ぶに行  
た。三回運ぶまでいで行つた。福光国民学校  
五年以上  
持て下さ  
たくさん  
る見る見  
るうちにな  
この山はな  
くなった。私  
も残ったの  
を持てた。  
あせをながしてはこんで  
友達、ほんたうにありが  
みなかの子供はつよいカ持ちだとも  
思つた。私達もこの福光町で、カ持  
つよくなろうと思つた。



六月三十日 土曜日 雨

今日は久しぶりに雨が降った。  
福光国民学校の先生が明日入隊な  
さるので、献状行會をした。

第四日の授業をした。國語は山の朝と  
いふ所へはいた。

午後は寮へ歸つて、荷物のせいとんを  
した。机の下をはいたり、ふいたりし  
て入れなほした。たなの荷物もつつみ  
かへたりした。せい理が終つたので、次郎  
ちゃんの前へ出すおはぶきを書いた夜は  
トラップのサボレオニをして、楽しかった。

七月一日 日曜日 曇

今日は曇つていたので、全校運動が出来  
なかつたので、第五日目の授業をした。  
七月なので、新しい班長のにん命式があ  
つた。今月は馬場さんだった。

午後の授業は

ので、小林さん  
さん達といっしょ  
トランプをし



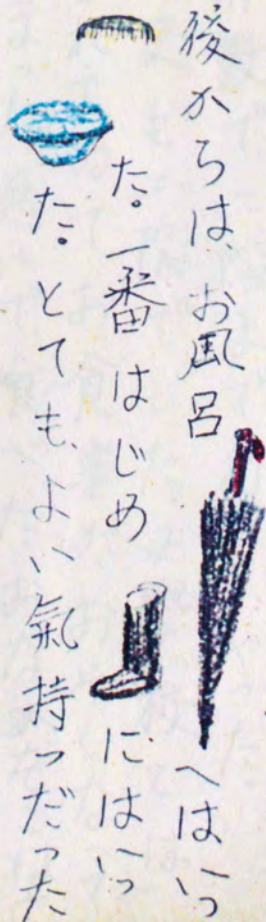
なかつた  
掘切にし  
た。

七月二日 雨 月曜日

今日は休養だった。

始めは床屋さんへ行った。そして、歸  
へるとすぐに洗面所で頭を洗っ  
た。森先生に、すきぐしで、すいて  
いただいた。

午後からはお風呂



七月三日 火曜日 曇

今日は瀬川さんと木村さんが面會に  
いらつて、私との面會は九月、まだ  
まだだと思つて、つまるなかつた。  
圖工の時間に境内へ行って、おしゃ生の  
つぎをした。

明日は國語のしげん  
があるので、午後は、  
一生懸命に、べん  
きやうした。







七月八日 日曜日 雨

今日は学徒隊の結成式があるので、五時に起床した。とてもねむかった。

雨のために講堂でやった。町長さんや、

町の主な方もいらした。私達六年生

は第六中隊の第二隊の第二班である。

その式がすんでから、赤松国民学校の

石川先生が御出征になるので、お別

れの式をした。

お昼食をいただけから、一部六年は校

旗を持て、お見送りに行った。人の波旗の

没萬歳の聲音樂に、おくられて元氣になった。

七月九日 月曜日 雨

今日は又雨が降ってゐた。

後は町さうに、私達六年生が代表して

出た。正面には六はしろの、おしゃしんが、じつ

が、人々に見守られて、おどろいてゐる。

お坊さんのお経をお聴みになるのを

すはって、じつとお開きした。

お式がすんでから、八幡様の前で、

英霊をお見送りした。

明日はお風呂なので、まきを運んだ。

今晚から大豆が大くなる。勝利の

日まで。よくがんばって、食ふよう。

七月十日 火曜日 一晴

今日は朝會の時には、いかいけいほう

が、はつ命されたので、防空服を身に

つけた。

久しぶりに、から

お外で、

事もおもちつぎで、前田寮へ行

て、いらした。ので、白習をした。

晩はきなこのつた、おいしいおもちが、

二つ出た。おさたうも、横について

七月十一日 水曜日 晴後雨

今日もおよい、お天気だった。もんぺ、上着

をぬいで、体操をした。

午後からは、三時ごろまで

晝ねを

他の組は

へ歸ったが、私達は歸へ

た。そして音楽室の、すのうで、ねた。

少し、ごろごろして、みたが、ぐすり

ねた。とても氣持がよかった。夕方は

雨が、ものすごい音をたてて、降った。





七月十二日 木曜日 曇

少し曇ってゐたので、かきを持って女學校へ行った。六年は圖書館だったのので、荷物を持って行った。圖工は製圖で、線の引き方をした。實線、点線、虚線を習った。算數は分數をおならひした。午後はお寺の前まで、野菜を取りに行った。おやがいのものはをかみへきれないほど、たくさんはこんだ。おさへほうの時間にもんぺが出来上がったので、とてもうれしかった。

七月十三日 曇 金曜日

今日は夜中に、空襲があったので、一時間ばかりおそく起床した。授業は二時間目の地理、東インドの島々といふ所をお習ひした。

三時間目は、綴方、夢といふだった。どういふ事を書いて、良いのか、わからなくて、とても困った。

四時間目には、お習字で、さくらの中の山一つといふ所を書いた。

午後には、炊事場で、おやがいの葉をよい所あるい所とに分けた。よくよく見て、いやだった。お達の食べ物だと、時で一生懸命した。

七月十四日

今日は晴天だったので、立ヶ原へ行って、青天上の下で、日光浴をした。

じばふのたくさん生えてゐる所へこしをおろした。森先生が一部六年は、一帯に不平を言ひやすい。もっと毎日、郎郎ほがらかにこくした顔で暮すやうにとおっしゃった。

少ししてから、一人づつ歌を歌った。大聲で歌った。おべんだうは、一番おそくまで、食べていた人が、良いとおっしゃったので、おそくたべたら、一番おそくなつて、先生にほめられた。

午後は早く歸つて、女學校で休んだ。

七月十五日

今日は、四朝、御飯をいただいてゐるといふ先生が、

「今とつぜん石田先生の所へ召集れ、状が来て、來月の十一日に、出征なさる事になりました。」

とおっしゃった。お達は、皆おどろいた。

が、石田先生は、いつもにみはらぬ様子で、いらつしゃるので、日本男子は、これでなくてはならないと思つた。



七月十六日

七月十七日

七月十八日

七月十九日



七月二十日

七月二十一日

今日はいよいよ石田先生がこの疎開學園を  
出發なところのだ。  
朝駈までお見送りに行った。



先生は、  
なごり  
ながめ  
になった。  
たので、軍歌を歌った。汽車がホーム  
にはいり、石田先生がお乗りになると皆  
ばんざい、と手を叩いた。

七月二十二日(日)晴後曇

今日はわりある晴れてゐたが、運動場が、  
つかへなかつたので二時間歩く事になっ  
た。すば笠をぶつけて行った。西太美村を、  
通って、小矢部川の橋を渡って立ヶ原から  
女學校へと歸へった。

久しぶりに、たくさん歩くいたので、とても  
つかれた。それにちやうど私は、おなみそ、  
こはしてゐたので、なほそのせぬみもしれ  
なかつた。

午後は長い間、ためてあつたお洗濯物を  
お洗濯した。それがすんだら女學校で休

七月二十三日(月)雨後晴



今日は、第一日の授業をした。  
一時間目は國語で、北千島の魚場をした。  
國史の「さ國」といふ所をおか習ひした。  
圖工は、製圖、線の引き方。とてもむづか  
しかった。お晝は、じゃがいも御飯。とても  
おいしかった。おなかが悪いので、げんのしゃ  
うこを少し飲んだ。午後は、久しぶりに、  
運動場で遊んだ。  
英靈向があるのので、校服を着て、駈へ  
行った。



七月二十四日

今日から福光の国民学校へ兵隊さんが訓練に来られるので、講堂を通ってはいけないう事になった。それで、御飯運びや食器洗ひは運動場から行った。来たりした。早速、兵隊さん方はいろいろして午後から訓練された。炊事場もこみあふので、さうさ仕事ですませて、女学校へ歸った。廣池さんの所へお母様とお姉様が面會にいらつした。とてもうらやましい。

七月二十五日

今日は草取りの行軍に行った。おくすりはげんのしゃうこだ。河原を歩るきながら取った。みちがなくとも困った。それにしても暑く、あまりたくさんあった。橋の所へ着いた時はほっとした。すずしくて、とても氣持がよかった。午後は寮で入浴だった。かみ洗ひもした。あせをかいたあだったのでも、氣持よく、さっぱりした。

七月二十六日(木)曇

夜中に空襲があった。長そでを着てねたので、なかなか暑くてねむれなかった。朝、森先生が、かやをたたきながら、



きのこの夜、敬告のちゃんがおとなになつたさうです。とおっしゃった。二度目の不幸。小父様や小母様はどんなにかっかりなさった事だろう。ほんたうにお氣の毒だ。あの可愛いこと子ちゃんはほんたうになくなつてしまふたのかしら。

七月二十七日(金)

今日は圖書館で授業をした。

お晝はお豆が少いかはりにかんぴやう、こやどうがはいったおいしい、まぜ御飯だった。

午後二時から智子ちゃんのおさう式がある。石黒寮へ歸つて式に出た。夕食の時、あま、おいし、永やとうが出た。



今日は空襲が夜中にあったので一時間ぐらゐおそく起床した。だが所よてい通り、小矢部川の下流へやく草取りに行つた。この前よりたくさんあつた。途中であや取りを見た。大きなのが目の前をすうーと通つて行く。とても取りにくさうだ。が、をがさんはうまく取つてみた。私も取つて見たくてたまらなかつた。午後は上流へ行つてお洗濯をした。

七月二十九日晴(日)

今日は、よいお天気だ。

第五日の授業の用意をして行った。いつも  
のとほり、運動場で朝會をした。かるい  
体操のち、かけ足をし

十一

うもした。

し、てぬ  
る、けい  
か、けい  
けい、ほ  
う、の  
さ、い  
れ

んが、  
う  
く  
く  
く  
と鳴りだした

で、すぐ教室へはいつて服さうなとの

三時間目から授業を始めた。

午後、午睡した。

七月三十日(月)晴  
今日は休養だ。

今日は休養だ。

午前中は小矢部川へ行つてお洗濯した。

「さ、帝がたいていぶよ、れてみたので洗った。」

大湯が  
いり  
じりと、  
ててく  
れるの  
で、ど

「は、行って来た。」

うき  
ま  
ろ  
ろ  
しく  
も、  
お  
な  
す  
の  
お  
つ  
け  
も  
の  
が

お晝にぬい  
かへし  
かたつた。阿々月もいたたか

出た。とてもおもしろい。なま。

なにかあったものなら、  
思ひに、千種した。ハ  
しせなみか

午後は又音楽室で

がいたかつたが、とてもきもちよくねむる。事

出來た。

七月三十日 欠一晴

時間日は國語だった。北千島の魚場を

終った。そして、十五、われは海の子」を羽白

二。算數は二回目のしけんだった。一回目は

出来なかつたので、がえつた。

あまのよく出た

畫食の附  
付  
た  
た  
た  
た  
泉  
の  
川

百点だった。木村さん、この糸のうさぎ

はともむつかした

午後  
いかに  
もが  
一室  
へ  
運  
は  
た  
た  
一  
音  
六

年は場所がないのでかぐれの前一松前

た。くづいもを洗つた。くさつたが一生懸命やつた



八月一日(水)晴

今日から八月だ。夏、暑い八月だ。

第二日の授業一時間目の理科は肺の

病気の事についてお習ひした。二時間目

からは急にまき運び作業になった。

山下寮の舎前に山とつまれてあるのを

女学校の校舎の横へ運んだ。三部五年

は、松達が運んだのをきれいに、つみかさね

た。みんなが一生懸命やったので、十一時こ

ろ終わった。御飯は三十分早くなった。じやが

いも、たたく、えんは、いつてみて、おいしかった。午後

音楽室で、午すぬした。さもちよかった。

一時間目は自習だった。日記をつけたり

勉強をしたりした。二時は理科だった

が、算数がおくれて、みたので、算数をや

た。三時はやはり自習だった。森先生が

一休み洗ひとおし、やったので、急いで寮

へ歸つて、かみを洗った。お昼からは二班

が、かみ洗ひをして、その後、入浴した。

あとで、いり米と大豆の、ったのが出た。と

てもおいしかった。夕方は、さるばに行

た。

八月三日(金)晴

今日は図書館の授業だ。

今日から少し、昼食が早くなるので、早く女

学校へ歸つた。

午後は水泳だ。松達は、おなかをこはして

みたので、やる事が出来なかった。松達の組

では、三人しか、およいだ方がなかった。

歸りに、村山さんといふ、兵隊さんと仲

よくなった。一年したら、ばく達は、靖國神社

へ歸るよ。とおっしゃったので、松達は、はつとした。そ

いて、やはり、兵隊さんらしい、いふ、があるな、あと思

八月四日(土)晴

今日から、一週間、夏期特別鍛練期間

だ。早速、午前中水泳だ。私は、うれし

と思ったが、おなかをこはして、みたので、は

いれな、いので、とても、がっかりした。片に、立つ

て、は、い、気持ちよ、さ、さうに、泳いで、る、

方、な、う、ろめ、し、さうに、見て、みた、夕方

寮で、先生に、明日泳いでも、よい、です、かと、お

聞き、すると、自信のある方は、よい、とお

し、やったので、水着を出して、うれ、しかった。

た。



八月五日(日)晴

今日は早起き行軍だ。朝四時半ごろ起床した。神社の参拜をすませると早速出かけた。福光橋のつ下流の橋まで行った。あゆかたくさんあよいでみた。先生に、元氣の出るおくすりをしていただいた。午前中は体養えた。午後はたのしみに特てみた。水泳だ。小矢部川へ行ってした。寒かった。ので、すぐに上着を着てしまった。

八月六日(月)晴

八、九、一、二

今日は向だか、日の光が弱かった。ので、水泳をするには、少し寒かった。が、よてい通り、午前中水泳だった。私はおななを少しはして、みたので、土手の上の木影のすずし、所で、見物をして、みた。とても、たのし、そうだった。

午後は午睡だった。二号教室で、三つ、つづけて、その上にねた。おこころれた時は、いり米のおやつだった。と、おいしく、いただいた。初め、おこころ

八月十日(日)晴

一時間目は國語で、突然しけんがあった。私達が習った字が、五十出た。わからない字が、とてもたくさんあった。後で、訂正して、いた。と、六十三点だった。

二時三時四時は自習だった。

午後午睡をした。たが、ほかの組も、學校にみたので、ねる事が出来なかった。

夕方、村山さんとおっしゃる兵隊さんにおいし、うな、さ、ちを、いただいた。

國語の点がよくなつた。から、も、おけ、こを、しよう。

八月十三日(月)晴

第二日の授業だった。國語は、月光の曲を、始めた。三時間目は自習だった。が、こ、い、とう、先生の操を、やった。

午後は、小矢部川で水泳だった。私は、おなな、か、が、り、返、すと、困、るので、土手の上で、見學をした。三時におやつが出るので、女學校へ行った。いり米だった。夕方、兵隊さん、か、と、平、人で、ね、こ、と、ね、ず、み、を、して、遊、んだ。



八月十四日(火)晴

今日は第三日の授業だった。一時間目、二時間、八くわ先生が御病氣だったので、自習だった。三時四時も阿久沢先生がいっしょになかったので、やっぱり自習をした。字のおけいこ。日記などを書いた。

午後は午睡だった。二号教室へ行きたいすを四つ合せてその上にねた。足に太陽があたって熱暑かったので、横にたろしてねた。しばらくして目がさめたので、どうしたのかと思うと、足がとてもしびれて困ってしまった。又ねると場せんが、小川さん、小川さん起きるのよ。と起されたので起きると、なをととむ村山さんからいたたたいた、マッパもちが出た。一口しかなくなったら、よいにほひがしてとてもおいしかった。

省食器を馬場さんに持たせていた。大皿がな反かなが落なかつたので、いと言った。馬場さんが困った。今度から早く乾くおたのみしよう。

八月十五日(水)晴

今日は女學校へ着くとすぐに、きのふ東京から送って来た小包を音楽室で開いた。うれしい。ひもを、ほぐくのが、いれたかった。中みち出て来たものは紙、布タオル。本、おくすりなどだった。すぐに東京へおれいのはがきを書いた。少しして、みる、体重はかりに行ったら、少しって、二十五キロだった。それがすむと、すぐ音楽室へ行って、しけんをした。ちやう音はよくわからなかった。歌は日本海海戦の一番をやった。お晝はおぼんなのでおなすのにたのが出た。とてもおいしかった。ばんもおはぎだった。おはぎはきなこ。じゃがいものゆでたのにも、きなこをつけた。東京のお父様の所からおはぎが来た。

省反夜、おしゃべりをした。



八月十六日(木)晴

今朝、宮地先生の情報で、日本が  
米英ソニたいして、無条件降服を  
した事ははつきりと分った。天皇陛  
下は、敵アメリカが、使つ原子爆弾  
のために、可愛い赤子をこれ以上、こ  
す事は出来ないとおっしゃて、各大臣  
達が、天皇の身の上の事を御心配  
申す、わが身はいかにならうとも  
良いとおっしゃて、平和をねがっ  
た。さうだ。私達は、このめたいけな  
さに、しぜんと頭がさがり、赤子を  
思ひ下さる、やさしい御心に、聲を  
上げ、ハンケチに、顔を押しあてて、  
泣いた。そして、これから、科學をす  
すめ、天皇に、かならず、御おんを返  
さうと心に、思った。  
反省、無条件降服をしたので、さわ  
いだ。

八月十七日(金)晴

今日は朝、朝食をいただき、みる  
すぐに川へ行って、お洗濯した。  
私は、しき布を洗った。石けん水  
の中で、少しもんで、ただいて、から、石  
の上で、ごし／＼と、こすつて、又、  
うら返しにして、又、ごし／＼と洗った。  
それから、さたない所をつまみ洗ひ、  
して、川の真中で、きれいに、ゆすい  
だ。廣池さんに、手傳つて、いただい  
て、ぎゅ／＼としぼった。石の上に、きれ  
いに、ひろげて、ほした。河原で、廣  
池さんのお家から、送つて来た、ビスケ  
トを、大きい、三つ、小さい、三つ、た  
だいた。あま／＼と、とても、おいしかっ  
た。午後は、女學校で、日記をつけた。  
リトラップをした。りした。  
省食事、たうばんで、~~たうばんで~~、事は、に、兵隊さんが、  
死な／＼するので、おたうばんが出来ないと言ふ、  
省へ、来てしまった。



八月十八日

今朝はお風呂をたくまきかなので、お當番にあたつてゐなむ人が  
女學校まで取りにいった。私も運  
んだ。お水くみも、朝會の時、私達  
真中の人ぐくんだ。十二三ばい入れ  
たら、ようやくちやうどよいほどにな  
だ。まだかみ床屋さんへいへない  
七人の方が床屋さんへいらつした。  
國史を、お習ひした。  
お晝御飯不すんでから、すぐに  
寮へ歸つて二班みらかみ洗ひをし  
た。管村さんのを手傳つて上げ  
た。一週間に二んのかみ洗ひな  
ので、一生懸命きれひに洗つた。  
いり豆、いり米などを手かごに、いただ  
いた。とてもおいしかった。そのうちお  
風呂がわいたので、いゆゑいゆゑに  
はいで、よいお湯だった。

八月十九日

今日は國語で、いけ花と言ふ所を  
やつた。手紙文です。いけ花はいけ  
た人の心がよく現れるものだと言  
つてあった。私達も花のような、  
美しいきれいな心を持つ人になら  
なければいけないと思つた。  
の、ほかの時、授業は皆、自習だつ  
た。さの、出た國史のしけんの一審  
の、米英の東亞侵略の法をの、下  
かきをした。とても、ちやうど、し  
てみたので、書きに、くつた。  
午後、やはり國史をやつた。しは  
らくして、林さんが持つて来て下さ  
たおようかんを、皆で、少しづつ、い  
ただいた。おまぐそ、おいしかった。  
それからは、國史のお清書をした。  
夜の御飯は、おふかとした、いや  
かいもの、代用食だった。



八月二十日(月) 晴

今日もとてもよいお天気だった。  
朝會の時、うそをつく人がゐると言  
ふので、阿部先生にとてもしかれ  
た。

國史のしけんを  
してゐると宮地  
先生が出すのを  
百くり上げると  
おっしゃ  
たので  
なほさ



ろ急いで書いた。午後夢中  
書いた。三時半ごろ野菜を取り  
に行った。大きなきゅうりや、おな  
す、じゃがいも、ななめを運んだ。  
生懸命書いたので國史が出来上  
りほとした。阿部先生のおっしゃ  
り通りうそは決してつかないやうにし

八月二十日(火) 晴

今日は時間目から、三時間目までは  
自習だった。四時間目は國史だ。  
第十御恵みのもとの國學といふ  
所をやった。

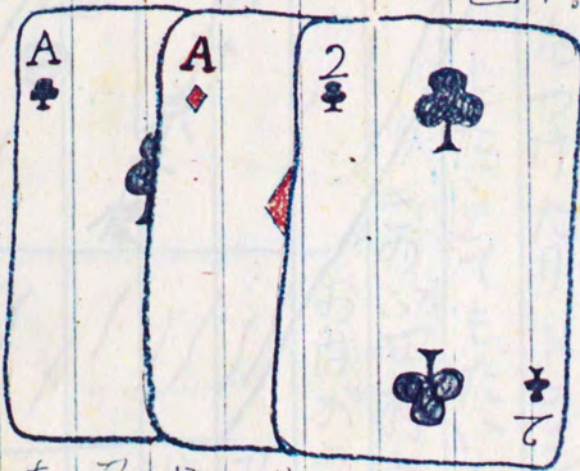
昔でも色  
々と料  
發明し

あるの  
私達も

達に

いよう

を發明して、アメリカを貰ひした  
ハと思った。



學を  
た人が  
だから  
昔の人  
負けな  
な科學

ちやう度疎開してから一ヶ年目に  
なる。その記念なので、お夕食  
は、ごちそうだった。さけ、かん、じゃが  
いも、眞白な御飯。さへは、いづけ。  
とてもとてもおいしかった。



八月二十日 天晴 夕方曇

今日は第百の授業だ。

一時間目、二時間目は自習だった。

三時間目はこの前の綴方のつづき

を書いた。私は中田先生あての

手紙文を書いた。

# 楽放送

一六 小川陽子

四時はお習字だった。午後寮へ

歸へらないので、楽放送のしく

だいが出た。午後よくおけい

こしてからお清書してお出し

た。

夕方は小矢部川へ行ってお

洗濯をした。空もようがとて

わるくなったので急いで歸った。

八月二十三日 天晴

今日は休養日だった。

朝、お庭にせみがゐた。

女學校でずっと自由にしてゐた。

私は日記をつけたり、ランプをし

たり、した。とてもたいくつだっ

た。

から、この田村さんの所

たので、おはがきが来

で、よ

して、

するこ

た。胃から

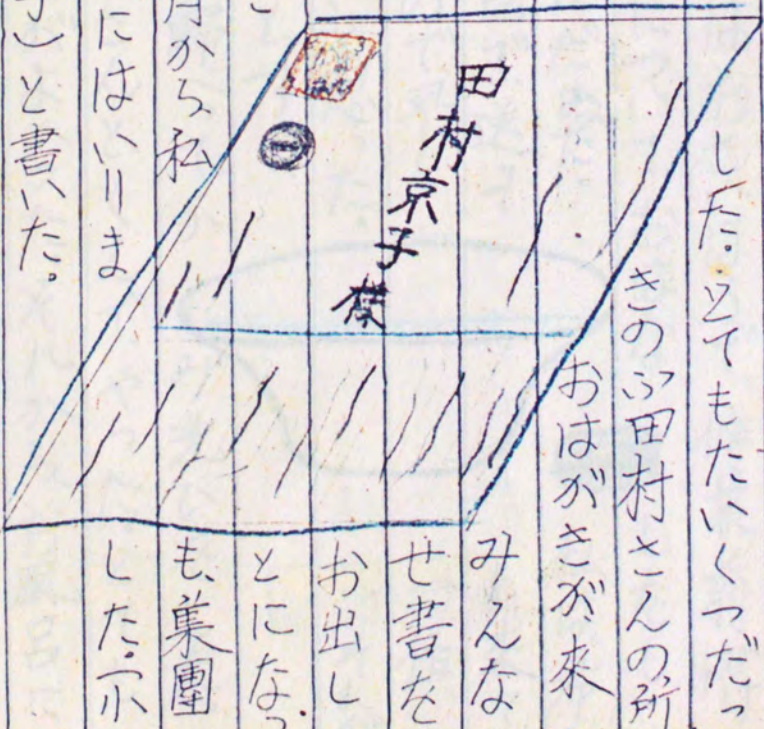
疎開にはいりま

川陽子と書いた。

午後やはり自由だった。夕方雨

が急に降り出したがそのうちに、

すぐやんでしまった。





八月二十四日(金)晴

今日は朝 お庭のおさうかをてつ  
だった。いめいめしてゐてなかなか  
よくはけなかった。散葉は木  
のおの所にたくさんはさまつてゐる  
よくそれをほうき  
でよく取  
た。  
図工  
の時間は運  
動場のすみの方  
で木を入れてしゃ生を  
した。  
なかなかむづかしかった。午後は  
体操でさうとう先生におならゐ  
した。てつばうでけんすゐをさせら  
れたが、一回も出来なかった。  
又、タチ村山さんにおあひした。  
反省けんすゐをもっともおけい  
こし、うでの力を出さう。

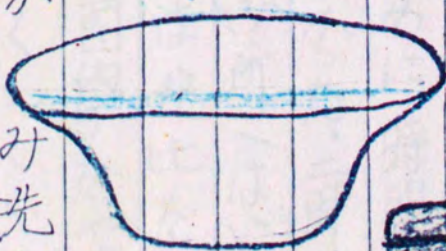
八月二十五日(土)晴

今日は阿久澤澤先生が歸つて  
いらつした。

一時間目は理科で、科学兵器の  
おはなしをしてゐただゐた。

午後はおさうほうで、作業前け  
の事について、おはな  
してゐただゐた。  
私は希

が小包で、送  
あるので早く  
リたいと思つた。  
すむとすぐ、  
寮に歸つて、か  
み先ひをした。  
作  
来  
それ



廣池さんといくんでやつた。とても  
氣持がよかつた。それからお風呂に  
はいらた。あの小さなかごの中に、ビ  
スケットと大豆を入れて、いただいた。  
とてもおいしかった。今日はとても  
すずしくて、すぐぬむる事が出来た。



八月二十六日(日) 晴

今日から一部六年は一週間米運び  
なので御飯前に食事當番以外  
の人はおいもとお米を運んだ。

一時間は國語でゆかしい心を羽打た。  
二時は地理で大東亜戦争の圖を  
書いた。私達の記念にするのできれ  
いに書いた。理科は結紮核の事

について  
お聞きした。

午後  
はなを  
書いた

休養  
はなを  
はなを  
はなを

した。夕食

の時枝豆が  
久しぶり

出た。とても

おいしかった。

夕方

村山さん  
の

んがおいしゅうな。

ビスケ  
たので

トと、ささ餅を下さう

たので

寮で分けていただいた。お豆がはい  
てゐてとてもおいしかった。

八月二十七日(月) 晴

朝、おかゆの中におうどんがはい  
てゐた。とてもおいしかった。

朝會の時だらたらしてゐると  
しかられた。そして、行進を何べん  
も

／＼もやりなほし  
れて、とてもいやになつてしまつた。

一時は、そのために、時間がなくなつ  
たのでやろなかつた。二時は國語で  
「朝顔」といふ所へはつた。和歌

だった。算数は連比をおなら  
した。國史は國學をや

宮地先生にくわしく  
た。

なししていただいた。  
おは

午後

は

日記をつけた

は

なをを作つたりした。

は

夜はおいしーいおもを

ゆで

た。代用食だった。



八月二十八日(火)晴

今日は二時間目に地理の大東  
亜戦争の圖のつづきを書いた。  
記念にするので一生懸命書いた。  
だいたいの形はついた。

午後、科學班の方々は授業をし



ていらっやったので、それ以外の私  
達は小矢部川へ行ってお洗濯を  
した。私は下着だけだったので早  
く終った。女學校へかへってカーパ  
ンをいただいた。夜、寮でまさを  
みさんに「風の又三郎」と言ふ映畫  
を見せていただいた。とても面白かつた。

八月二十九日(水)晴

今日は第五日の授業もをばったの  
で休養日でした。きのう科學班の  
方達はお洗濯をなさるなかつたの  
で、私も洗濯物をさがして、又、小矢  
部川へ行った。私は

ねまきのずぼんを

洗った。赤いしまが

はいつゝるもの

で、どうもきれ

いな色が落ちた。



早くかはいといいなあ、思った

けれどかはいなかつた。

お晝はかぼちゃとおなすのおに  
つけだ。とてもおいしかった。

おやつにはかえパンを七つつい  
ただいた。夜、昨日のつづきの  
映畫を見せていただいた。一日を  
たのしくすごした。



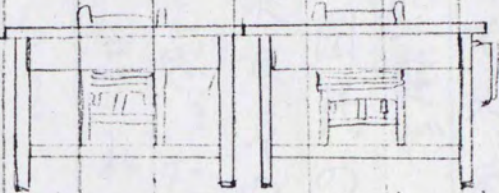
八月三十日 天晴

今日はいやがいもが、とてもへったので、せいりして、もとの位置へ机を又、うごかした。又、久しぶりで、とてもうれしかった。

朝會の体操前に、校舎のそばの草取りをした。とても

あつかった。一生懸命やった。

行進のおけいこを何べん



も何べんもした。とてもつかれた。お晝は久しぶりにおいしくおにた。お魚が出た。とてもおいしかった。午後は男子と、シニールイキウのしあひをした。かん。はんをついた。だいた。

八月三十日 (雨)

朝から、雨が降って来た。

少し寒かったので、上着を着て、学校へ行った。

午前中は、第二日目の授業をした。

午後は、三十日なので、月末の大掃除をやる。

寮へかへて、

すぐに森先生

から荷物を

たなからおろし

て、ただいた。又、一ヶ月しまつて

おくのだと思つて、いねいにつつま

なほいぎゅつとしはって、又、たな

の上にあげて、ただいた。下の

にもつもせい理した。たたみも、あ

げてはいた。久しぶりにきれいにし

て、ほつとした。



第二學期

九月一日 土曜日

今日から新しい月九月だ。

大正十二年の今日は関東に大震災が起つて東京の何十萬の家はつぶれたりもえたりした。二三年ぶたつて又元よりいづはな町になった。空襲でやかれた町々も私たち小國民の手でもっともとりっぱな東京そのほかの町や市を作りたいと思つた。

二學期が開始されるが又一生懸命がんばらう。

授業時間が今度から四十五分になりお昼は十二時十分過ぎになる。

御飯も朝はおかゆ、晝夜は豆の御飯になる。二百十日も無事に暮れて今年も豊年だらう。

九月二日 日曜日

今日は全校鍛練だ。

上着もぬいで、もんぺもぬいで、たもぬいで運動場へ出た。

しばらくは体操と行進のおかげををした。

すんでから阿部先生のおさしうにしたがって、ニールイキウの仕合をした。

ける時に「ヤア」と氣合をかけた行つた。おしまふは分列行進で、いづは



にをはった。

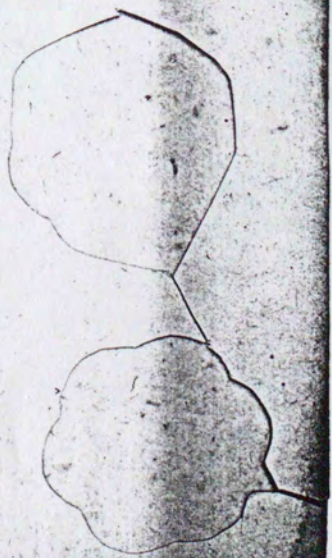
午後、私達はみみ洗ひだった。お風呂にもはいた。熱くもなくぬるくもなく、とてもよいお湯だった。すぐ女學校へ行つた。かんぐパンを六つついた。だいた。おいしかった。



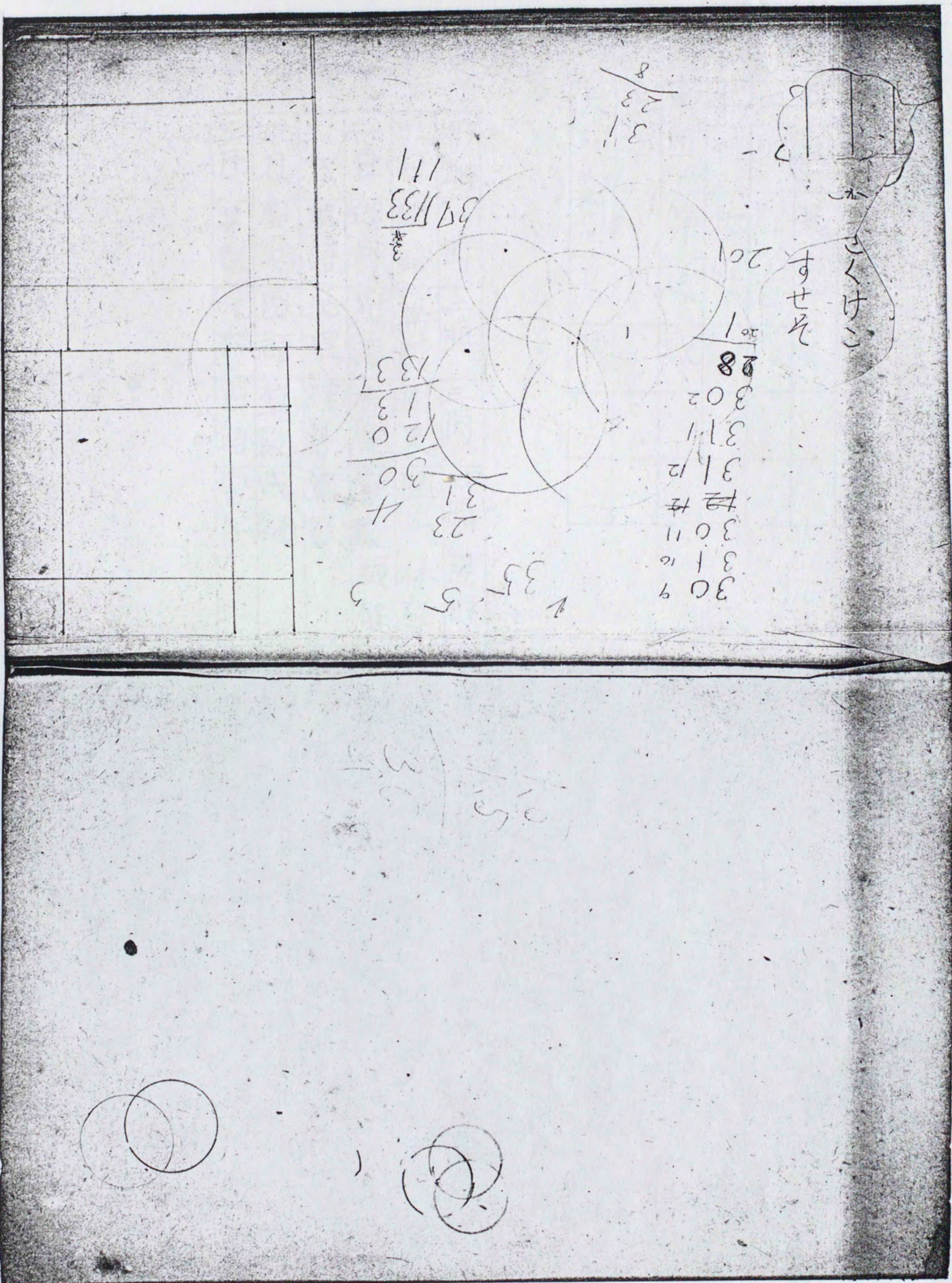
九月三日 月



あいうえお  
かきくけこ  
さしすせそ  
たち









六	五	四	三	二	一	曜
國語	算	國	理	理	國	時
圖工	國	算	地	國	史	二時
算	習	史	算	音	圖	三時
地		裁		裁	休	四時
						五時
						六時

五	四	三	二	一	第
日	日	日	日	日	時
算	圖	國	理	國	一時
數	工	語	科	語	二時
地	國	地	國	算	三時
語	語	理	語	數	四時
習	算	料	音	國	五時
字	裁	算	樂	史	
	縫	數	算	圖	
			數	工	
			裁	休	
			縫	操	